

「これからの時代に求められる資質・能力を育むための カリキュラム・マネジメント」の手引き

学習指導要領（平成29年告示）は、変化の激しい予測困難な時代を生きることとなる子どもたちに、未来を切り拓いていくための資質・能力を確実に育成することを目指しています。その実現に向け、社会と連携・協働しながら資質・能力の育成を図っていく「社会に開かれた教育課程」を重視するとともに、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善やカリキュラム・マネジメントの充実が掲げられています。

本手引きでは、以下の内容について説明しています。各学校でのカリキュラム・マネジメントの取組を進める参考資料としてご活用ください。

【目次】

（はじめに）

- | | |
|------------------------------------|---------|
| 学習指導要領で求められているカリキュラム・
マネジメントの充実 | …… 2～ 3 |
| 1 学校の教育目標など教育課程編成の基本と
なる事項の設定 | …… 4～ 6 |
| 2 児童生徒及び学校や地域の実態に応じた
教育課程の編成 | …… 7～12 |
| 3 教育課程や単元配列表に基づいた教育課程の
実施 | ……13～16 |
| 4 教育課程の実施状況に対する評価・改善 | ……17～19 |

手引きの最後に研究指定校を紹介しています。



令和3年3月
大分県教育委員会

まず、学習指導要領には「カリキュラム・マネジメントの充実」についてどのように示されているか確認しましょう。



※学習指導要領 第1章総則 第1の4 及び 第5の1 参照

□「カリキュラム・マネジメント」とは、学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくことである。

□「カリキュラム・マネジメント」は、次の三つの側面などを通して、教育活動の質の向上を図る。

カリキュラム・マネジメント三つの側面

- (ア) 児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと。
- (イ) 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと。
- (ウ) 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと。

□各学校においては、校長の方針の下に、校務分掌に基づき、教職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行うよう努める。

カリキュラム・マネジメントの充実に向けて、学習指導要領等の記載内容を理解することが必要です。「学校全体で組織的に進めるカリキュラム・マネジメント」（大分県教育委員会）を読んで確認してみましょう。

*大分県教育委員会ウェブサイト <http://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/kari-mane.html>

では、次のページから、カリキュラム・マネジメントの充実に向けて具体的にどのような取組を進めていくのかを説明します。



カリキュラム・マネジメントとは、下図のように、
「学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくこと」
です。



児童生徒や学校、地域の実態をもとに、**実態把握**

(ア)～(ウ)[三つの側面]を通して、**手立て**

各学校が編成した「教育課程に基づく組織的かつ計画的な教育活動の質の向上を図る」こと

それによって…

ねらい

学校の教育目標の実現を目指す

各学校においては、自校の教育課程の編成、実施、評価及び改善に関する課題がどこにあるのかを明確にするとともに、教職員間で共有し改善を行うことにより、学校教育の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの充実に努めることが求められています。

では、実際にどのようなことに取り組んでいくのかについて、【目次】に示した4つの内容を次のページから順に説明していきます。

1

学校の教育目標など教育課程の編成の基本となる事項を定める

「教育課程」の目指すところは「学校の教育目標」の達成にあることを教職員間で共通理解した上で、各学校の児童生徒及び学校や地域の実態に応じた適切な「教育課程」を編成することが重要です。

次の3つのSTEPにより、「教育課程」編成の基本となる3つの事項を定めていきましょう。

STEP1

学校の教育目標 の設定

児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握した上で、学習指導要領に示された資質・能力の三つの柱を踏まえつつ、「**学校の教育目標**」を明確にすることが重要です。

STEP 1では「**共有化**」がキーワードです。
学校の教育目標の達成には、全教職員がベクトルを合わせて教育活動に取り組んでいくことが重要です。



学校の教育目標



資質・能力の
三つの柱

どのような力が
必要か？



子ども・学校・
地域の実態



STEP2

目指す子ども像 の設定

学校の教育目標は、子どもたちに理解できるような文言で示したり、「知・徳・体」で示したりしている学校が多いと思います。

「目指す子ども像」では、学習指導要領に示された資質・能力の三つの柱と、学校がこれまで大事にしてきたこと等を照らし合せて分析し、「自分たちの学校が育てたい**具体的な子どもの姿**」をイメージして「**目指す子ども像**」を設定することが重要です。

STEP 2では「**具体化**」がキーワードです。

児童生徒の姿や学校・地域の実態、教師や保護者の願いを踏まえ、具体的な子どもの姿を明確にすることが重要です。



STEP3

育成を目指す資質・能力 の設定

STEP2で設定した「目指す子ども像」を実現するためには、具体的にどのような資質・能力が必要かを見極め、各学校で「育成を目指す資質・能力」を設定します。
 このときに重要なのは、「**育成を目指す資質・能力**」を「**焦点化**」することです。各種データや教職員の経験等に基づき、必要だと思われる資質・能力について、思い切った「焦点化」を図ることが重要です。

STEP3では「**焦点化**」がキーワードです。

焦点化によって、育成を目指す資質・能力の観点から、「いつ」「何を」「どのように」行うかについて、教科等横断的な視点での検討がしやすくなります。



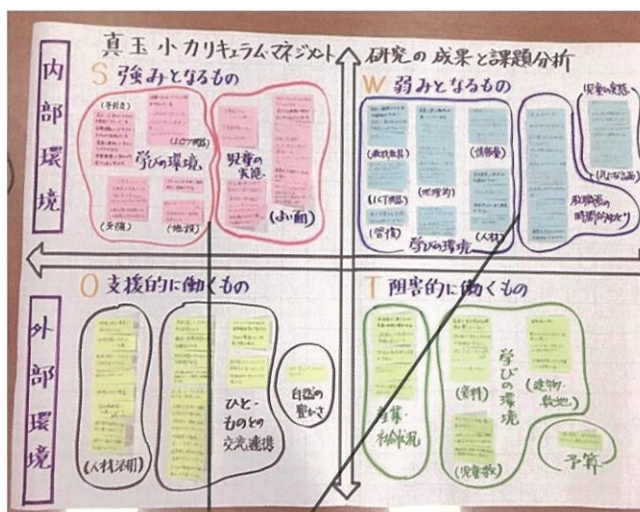
各学校において「育成を目指す資質・能力」を設定する際には、[STEP1]で示したように児童生徒や学校・地域の実態など様々な面から検討する必要があります。

例えば、「育成を目指す資質・能力」として、児童生徒、学校や地域の実態から、「コミュニケーション能力」などを設定することも考えられますし、「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力(伝統や文化の継承, 防災, 環境 等)」などを、教科等横断的に育成するよう教育課程を編成することも考えられます。

【事例の紹介】

◇児童生徒や学校・地域の実態把握

<SWOT分析の活用>



豊後高田市立真玉小学校では、学校の教育目標の達成に向け、SWOT分析を行いました。

これにより、「児童のよい面と気になる面」「学校内外の環境」等について教職員間で共有ができ、さらにそこから、「育成を目指す資質・能力」につなげて考えていくことができました。

育成を目指す資質・能力として、「協働して学び合う力」と「課題対応能力」を設定しました。

◇「育成を目指す資質・能力」の焦点化

<KJ法の活用>

<学校教育目標>

豊かな心を育み自ら学びたくましく生きる子どもの育成

	<めざす姿> 知識及び技能	<めざす姿> 思考力、判断力、 表現力等	<めざす姿> 学びに向かう力、 人間性等
長所(赤付箋)			
短所(青付箋)			

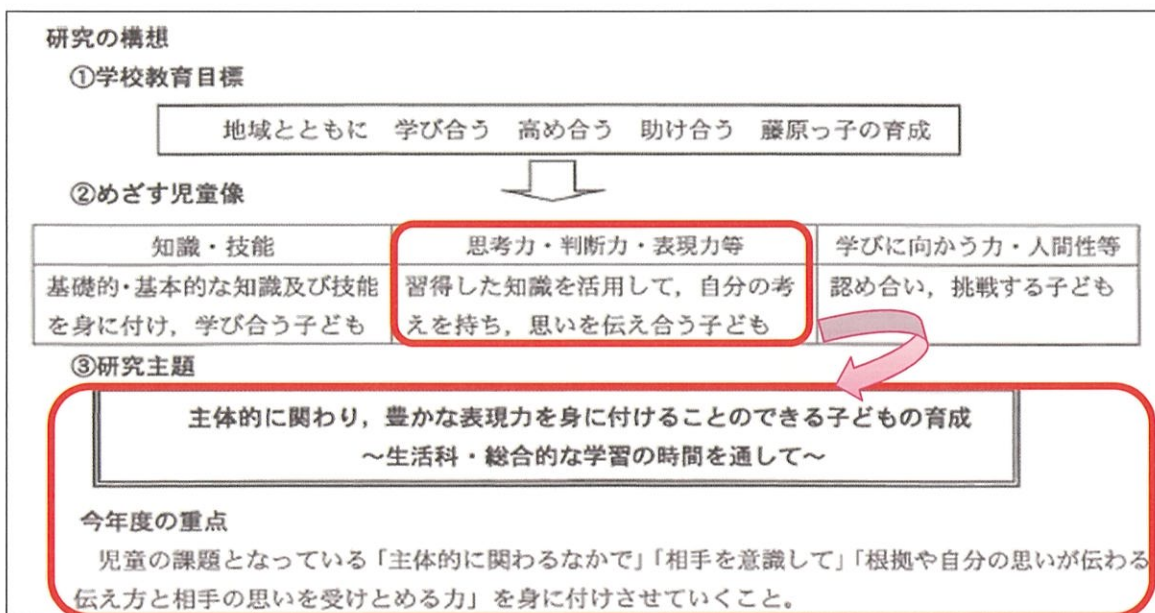
「筋道を立てて考え表現する力」の育成

日出町立日出小学校では、学校の教育目標の達成に向け、KJ法による実態把握と「育成を目指す資質・能力」の焦点化を行いました。

- ①学校の教育目標を達成する視点から、児童の実態を資質・能力の3つの柱で整理
- ②「短所(青付箋)」のうち、いちばん多く付箋が貼られた「思考力、判断力、表現力等」に着目
- ③青付箋の内容と学校が設定した「目指す子ども像<めざす姿>」を比較し、特に大事にしたいものを見極めて「育成を目指す資質・能力」を設定

<育成を目指す資質・能力の設定と研究主題との関連>

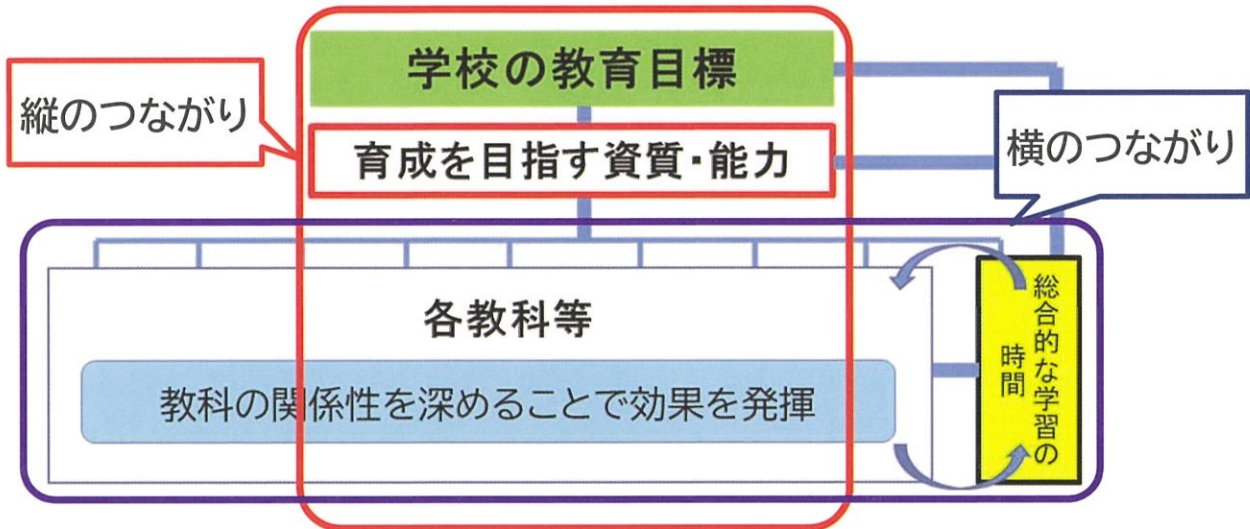
日出町立藤原小学校では、児童の実態を踏まえ、「相手を意識して」「根拠や自分の思いが伝わる伝え方と相手の思いを受け止める力」の育成に重点を置き、研究主題を設定しました。



2

児童生徒及び学校や地域の実態に応じて、適切な「教育課程」を編成する

学校の教育目標を実現するためには、「縦のつながり」と「横のつながり」を意識した教育課程の編成と授業実践が必要です。



また、学習指導要領に示されているカリキュラム・マネジメントの三つの側面のうち、次の2つは、教育課程の編成と特に大きな関係があります。

(ア) 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと

(ウ) 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと

(ア)では「単元配列表」、(ウ)では「教育資源リスト」等の作成と活用が有効です。



単元配列表の作成・活用

次に示す4つのSTEPにより「単元配列表」の作成や活用を進めていきます。

STEP1

県教育委員会義務教育課のHPには、各地区で採択された教科書に対応した単元配列表を掲載しています。まず、自校の単元配列表を確認してみましょう。

大分県教育委員会義務教育課ホームページ

(小学校) <http://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/r2-tangenhairesu.html>

(中学校) <http://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/r3-tangenhairesu-jrhigh.html>

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月
国語	視点の違いに着目して読み、感想をまとめよう ・帰り道	筆者の主張や意図をとらえ、自分の考えを発表しよう ・笑うから楽しい ・時計の時間と心の時間 聞いて、考えを深めよう	たのしみは文の組み立て 天地の文 私たちにできること	夏のさかり 私と本 森へ	せんねん まんねん いちばん大事なのは 利用案内を読もう 熟語の成り立ち 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう ・やまなし イーハートヴの夢	言葉の変化 秋深し みんなであそぶ
書写	学習の準備をしよう	組み立て方	点画のつながり	書く速さ	用紙に合った文字の大きさ	字
社会	ともに生きる暮らしと政治	国づくりへの歩み	大陸に学んだ国づくり 武士の政治が始まる	室町時代と力をつける人々 全国統一への動き	幕府の政治と人々の暮らし 新しい文化と学問	日本の歴史 明治の
算数	対称な図形 文字と式	分数×整数 分数÷整数 分数×分数	分数÷分数 資料の調べ方		円の面積 立体の体積 比とその利用	図形の性質
理科	私たちの生活と環境 ものの燃え方	植物の成長と日光の関わり 体のつくりとはたらき	植物の成長と水の関わり	生物どうしの関わり	月と太陽	水溶液の性質
総合	単元名「〇〇〇〇」※各学校において、探究課題を踏まえて設定					
特活	学級開き・組織づくり	学級の諸問題解決	学校図書館の活用	1学期の反省	学級組織づくり	学級の諸問題解決
	基本的な生活習慣	健康で安全な生活	係活動の充実	夏休みの生活	基本的な生活習慣	児童会への提案
	よりよい人間関係	望ましい食習慣	学級生活づくり		運動会への参加	災害から身を守る

前年度に作成している単元配列表があれば、それを見直すことから始めます。

左は、義務教育課のホームページ掲載のもの（※一部抜粋）です。参考にしてください。



STEP2

単元配列表の中から、学校の教育目標の実現や育成を目指す資質・能力に「特に関わりが深い」と思われる単元を選び出します。

STEP 2で重要になるのが、P4～5で示した「具体化」「焦点化」です。

どの単元が学校の教育目標の実現につながるか、育成を目指す資質・能力はどのようなものかを具体的にイメージできていないと、資質・能力の育成に「特に関わりが深い」単元を選び出すことができません。

また、教科等横断的な教育課程を編成・実施する場合、育成を目指す資質・能力をあれもこれもと設定してしまうと、かえってねらいが不明確になってしまい、資質・能力の育成が不十分となるおそれがあります。



STEP3

学校の教育目標の実現（育成を目指す資質・能力の育成）を効果的に行う観点から、選び出した単元の指導の時期を揃えたり、内容を関連させたりしたほうがよいものを検討します。



STEP3では、学級担任の立場や教科担任の立場から積極的に意見を出し、学年・学校全体で、組織的に、効果的な単元配列を考えていくことが重要です。

STEP4

作成した単元配列表を確認しながら、教科等横断的な視点を意識して教育課程を実施していきます。

教育資源リスト(人材リスト等)の作成・活用

教育課程の実施に当たって、学習をより効果的にするために活用できそうな「ひと・もの・こと」などを調べ、それらの資源を一覧にしたリストを作成します。

その際、学校運営協議会の委員や地域学校協働活動推進員（「協育」コーディネーター等）のアドバイスや参画を得たりすることで、幅広い情報に基づいたリストの作成が期待できます。

作成したリストは、教職員間で十分に共通理解するとともに、教育課程の編成や実施の各段階で、その活用について検討します。そうすることで、地域の教育資源等の活用による充実した授業を展開できます。



	支援内容	人的資源
教育活動の支援	合唱・合奏	
	しいたけコマ打ち	〇〇さん
	書き初め	校区内講師
	太鼓	民謡保存会
	郷土史	公民館長
	木工等	
	そば打ち	
	野鳥観察	〇〇大学



地域にどのような教育資源があるか、また、どのような教育資源を活用したいかを、教職員で出し合う。

出された教育資源について
①児童生徒の資質・能力の育成に有効かどうか
②実際に依頼をすることが可能かどうか など
学校運営協議会等での地域住民や保護者代表の意見も参考にしながら、リストを作成する。

リストにある教育資源の活用も含めて教育課程を編成する。
→活用イメージの反映

【事例の紹介】

◇単元配列表の作成・活用

①

算数	ひょう・グラフと時計	長さ	1000までの数	かくれた数は
	たし算とひき算	たし算とひき算のひっ算(1)		かさ
道徳	・学校大すき ・学校たんけん ・できるねポントくん	・そこだよポントくん ・げんかんそうじ ・くろぶたのしっぱい ・おもしろいってごらん	・やさい村の子どもたち ・おとす入ひろう人 ・わたしたちもごとをし たい ・なかよしでいたい	・三べんかんがえて ・小さなゆきうさぎ
	風のゆうびんやさん としよかんへいこう かん字のかき方に 気をつけよう こんなことがあったよ	たんぼぼ かたかなで書くことば ことばで かんざつしたことを 書こう	お手紙 まよい犬さがさそう ふるしきはどんなぬの しゅ語とじゅつ語に 気をつけよう	じゅんじょよく書こう 本は友だち しを読もう
特活	学級や自分のめあて 交通安全	朝食をしっかり食べよう 運動会を成功させよう	雨の日の遊び方 プール使用のきまり	7月までをふりかえろう 夏休みの過ごし方
	うたでもだちのわを ひろげよう	はくのみとまりを かんじとろう	音のたかさのちがいを かんじとろう	

日出小学校では、学校として育成を目指す資質・能力を「筋道を立てて考え表現する力」に焦点化しました。そこで、まず、全ての単元について、国語科を中心に位置付けた「単元配列表①」を作成しました。

※掲載の単元配列表は一部を切り取って見やすくしています。(②③も同様)

②

選ぶ

月	8/9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合		日出小のよさPR大作戦 日出小のまわりを調べよう			日出小のよさをPRしよう		
社会		これからの食料生産					
算数			面積		割合とグラフ		
理科		天気と情報(2) 台風と天気の変化			電磁石の性質		
国語	目的に応じて資料 を調べよう	みんなが通こし やまい町へ どちらを選びますか	1 クワアや船を船に載こ う	あなはははとう考える	生活の中で詩を創し よう		鑑賞しよう、言葉 とわたしたち

次に、「単元配列表①」に配列した各教科等の単元の中から、「筋道を立てて考え表現する力」と関係が深い単元を選び出していきます。これが、「単元配列表②」です。

③

つなぐ

月	8/9月	10月	11月	12月	1月
総合		日出小のよさPR大作戦 日出小のまわりを調べよう			日出小のよさをPRしよう
社会		これからの食料生産			
算数			面積		割合とグラフ
理科		天気と情報(2) 台風と天気の変化			電磁石の性質
国語	目的に応じて資料 を調べよう	みんなが通こし やまい町へ どちらを選びますか	1 クワアや船を船に載こ う	あなはははとう考える	生活の中で詩を創し よう

（活用）発表
資料選定
情報整理・関係づけ
理由や根拠

（活用）発表
資料選定
情報整理・関係づけ
理由や根拠

（活用）発表
資料を正確に読む
理由や根拠

（活用）発表
立場・意見・主張
情報選定(目的)
理由や根拠

さらに、選び出した各教科等の単元を「それらに関連付けることで、資質・能力の育成が、より効果的にできそうなものはないか」という視点で見直します。

最後に、関係の深い単元を線でつないでいきます。これが、「単元配列表③」です。

<総合的な学習の時間を核とした教育課程の編成>

次は、日出町立藤原小学校の単元配列表（※一部抜粋）です。藤原小学校では、焦点化した育成を目指す資質・能力「**相手を意識して**」「**根拠や自分の思いが伝わる伝え方と相手の思いを受け止める力**」を踏まえ、国語科の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の学習で育成された資質・能力を総合的な学習の時間において活用・発揮できるよう、教育課程の編成を工夫しています。

単元配列表に
今年度の重点を示す

【学校の教育目標】		地域とともに 学び合う 高め合う 助け合う 藤原っ子の育成											
【目指す児童像】		(1) 基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、学び合う子ども											
		(2) 習得した知識を活用して、自分の考えを持ち、思いを伝え合う子ども【年度の重点】											
		(3) 認め合い、挑戦する子ども											
月		4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	学年
国語		・書いて、きいて、きいてみよう ・インタビューするとき			・みんなが過ごしやすい町へ		4.資料を用いた文章の筋道を考え、それを生かして書くこと ・資料が教えてくれること ・統計資料の読み方 ・グラフや表を用いて書くこと				・数算しよう、言葉とわたしたち		140
書写		話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ)			目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)		目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)				資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)		35
社会													100
算数													175
理科													105
総合		日出町の良さPR大作戦！～日出町の良さを伝えよう～（40時間）					藤原の良さをもっとPR大作戦！～藤原地区の良さを見直そう～（30時間）					70	
		①日出町の自慢できることに関する調査活動をする。 ②様々な取り組みをしている人々にかかわる探究的な学習を通して、地域の特色を生かした取り組みや携わる人の工夫や思いについて理解し、体験活動から課題を見出し、解決に必要な情報を収集する。 ③目的に応じて比較・分類・関連づけて考える力や相手意識・目的意識を明確にして表現する力を育てると共に、日出町を愛する心情を育む。					①前時の活動を振り返り、自分たちの住んでいる藤原地区の良さを見直す。 ②様々な取り組みをしている人々にかかわる探究的な学習を通して、地域の特色を生かした取り組みや携わる人の工夫や思いについて理解し、体験活動から課題を見出し、解決に必要な情報を収集する。 ③目的に応じて比較・分類・関連づけて考える力や相手意識・目的意識を明確にして表現する力を育てると共に、地元「藤原」を愛する心情を育む。 ④藤原地区の良いところ自慢できるところをより詳しく調査し、アピール方法を精査工夫して、発表する。					35	
													35
外国語													70
											I love mytown.		



単元配列表（教科等横断的な教育課程）を作成する際には、

- (1) 活用・発揮を期待する資質・能力を焦点化する
- (2) 強い関係に限定する

などして、シンプルにつなぐことが大切です。シンプルにつなぐことによって、活用・発揮の実現可能性が高まります。

総合的な学習の時間を単元配列表の中心に位置付けることの意義

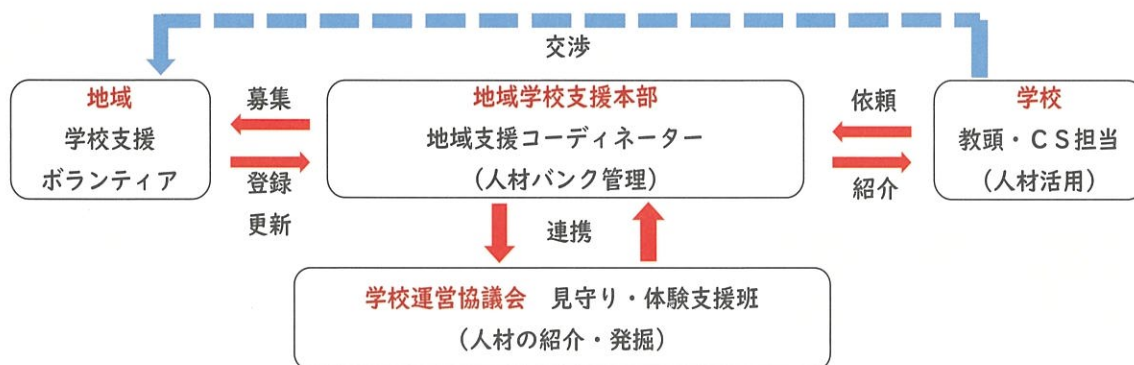
- 今次改訂では、各学校において定める総合的な学習の時間の目標と各学校の教育目標との関連を図ることが総則に明記されました。
- 総合的な学習の時間においては、児童生徒が実社会・実生活の課題の解決に向けて探究的に学ばなかで、各教科等で育成された資質・能力を活用・発揮していくことが期待されています。
- 各教科等で身に付けた資質・能力と総合的な学習の時間で育成を目指す資質・能力を相互に関連付け、学習や生活に生かし、総合的に働くようにするため、各学校において各教科等との関連を図った総合的な学習の時間を展開することが求められます。

◇人材リスト等の作成・活用

<地域支援コーディネーターの協力による教育資源の確保>

豊後高田市立田染中学校では、生徒の資質・能力の育成や教職員の負担軽減の観点から、教育資源の有効活用に積極的に取り組んでいます。地域の教育資源の確保や活用には、次に示す「地域人材活用フロー図」が参考になります。

○地域人材活用フロー図



地域人材等を活用にする際には、次に示す「教育資源リスト」により指導者と学校側が直接交渉して日時や内容を決めていきます。

○教育資源リスト(※一部抜粋)

①物的資源

有形	無形
文化財(富貴寺・真木大堂・熊野磨崖仏等)	田染音頭・田染民謡
田染公民館	田染公民館祭
田染荘	御田植祭・収穫祭
世界農業遺産(しいたけ・ため池・クヌギ)	伝統の技(しめ縄・ハ反ずり体験)
交流館「蔵人」	盆踊り大会
豊かな自然	卒業・進級記念植樹

②人的資源

活動内容	協力者
田染民謡・田染音頭	田染民謡保存会・太鼓指導者
田染荘御田植祭・収穫祭	小崎地区実行委員会
田染地区盆踊り	田染を愛する会委員
公民館祭	公民館館長
ハ反ずり	蔭村組合
野鳥観察	日本文理大学教授

3

作成した教育課程や単元配列表に基づいて、教育課程を実施する

各学校においては、教育目標の実現を目指して作成した教育課程や教科等横断的な視点で単元の関連を「見える化」した単元配列表に基づいて、教育課程を実施します。

学習指導要領第1章総則第3の1の(1)には、次のように示されています。

〔資質・能力の三つの柱〕

第1の3の(1)
知識及び技能

第1の3の(2)
思考力、判断力、表現力等

第1の3の(3)
学びに向かう力、人間性等

第1の3の(1)から(3)までに示すこと（〔資質・能力の三つの柱〕）が偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童（生徒）の主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を行うこと。

教育課程の実施にあたっては、学習指導要領解説総則編にある次の内容も確認する必要があります。

主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材など、内容や時間のまとまりを見通して、例えば、主体的に学習に取り組めるような、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、児童（生徒）が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかといった観点で授業改善を進めることが重要となる。

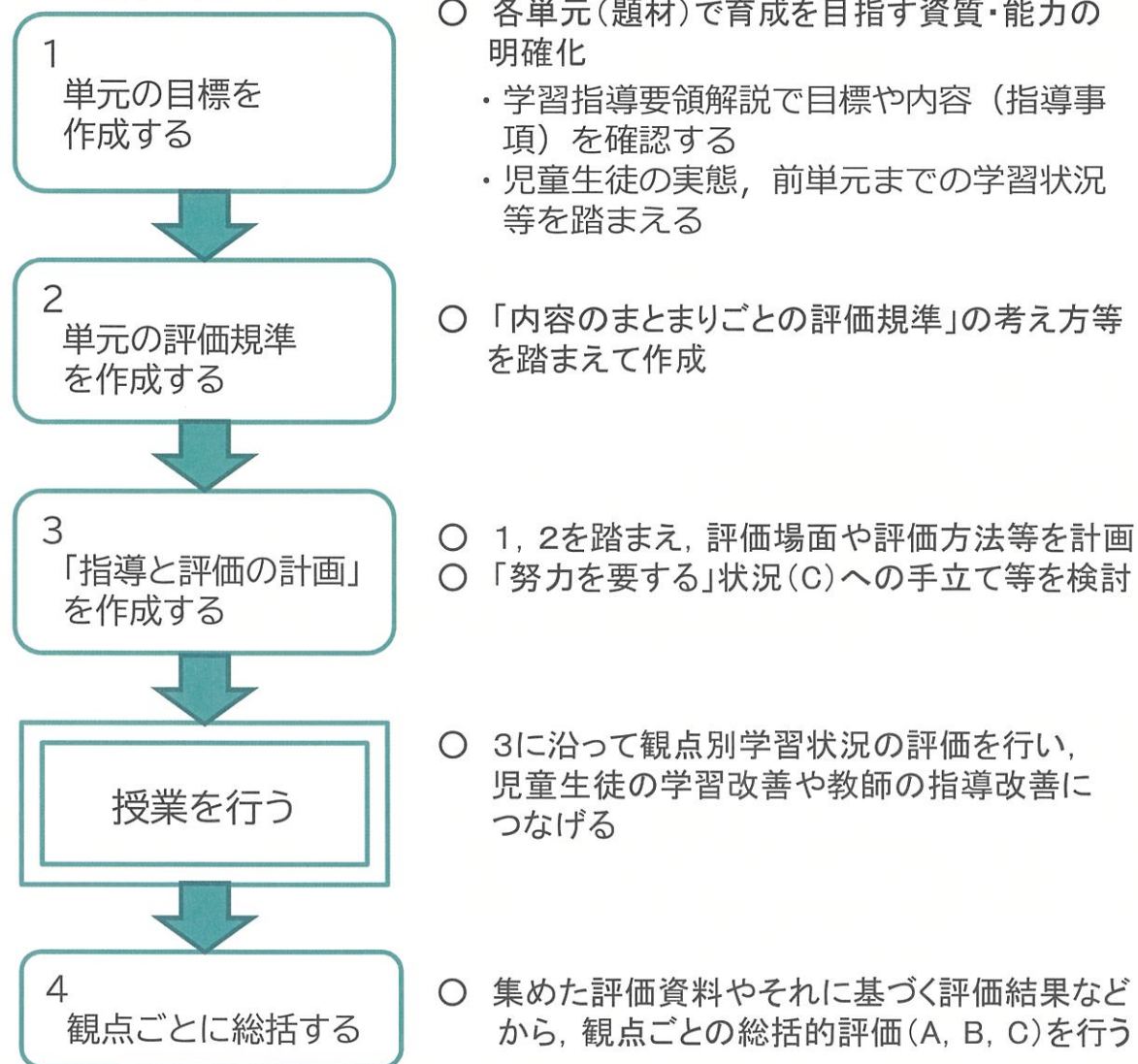
つまり、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」を考えることは、資質・能力の育成を目指し、「単元や題材などにおける内容や時間のまとまりをどのように構成するか」という単元等のデザインを考えることであり、カリキュラム・マネジメントと大きく関連することが分かります。



教育課程の実施に当たっては、国立教育政策研究所発行「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」が参考になります。

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」より

評価の進め方



これまでに説明した「①教科等横断的な教育課程の編成・実施」や「②教育資源の活用」は上記に示した一連の流れの中で行うこととなります。

カリキュラム・マネジメントを充実させるには、特に、「3『指導と評価の計画』を作成する」や「授業を行う」場面で、①や②を**意識的に行う**ことが重要です。



各教科等で育成した資質・能力を他教科等の授業で活用することは、これまでも行われてきました。

カリキュラム・マネジメントの取組では、他教科等で育成した資質・能力の活用を意識的に行うことにより、確実かつ効果的に資質・能力を育成することを目指していきます。

【事例の紹介】

◇教科等横断的な教育課程の実施

<国語科で育成した資質・能力の活用を他教科等の学習に位置付ける>

(国語科 話す・聞く) 【5】年

単元目標(教材)	たがいの立場を明確にして話し合おう「よりよい学校生活のために」		
単元目標	○目標や、意図に応じて、日常生活の中から話題を決め集めた材料を分類したり関係づけたりして伝え合う内容を検討できる。 ○互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い考えを広げたりまとめたりすることができる。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	資料と情報の関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ)	「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) 「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ)	粘り強く互いの立場や意図を明確にしなが、学習の見通しをもって、身の周りの問題を解決するために話し合おうとしている。

<単元計画>

主な学習活動	指導上の留意点
1 これまでの話し合い活動を振り返り、学校生活をよりよくしていくための課題を解決するための話し合いの学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">学校生活をもっとよりよくするために、たがいの立場を明確にして、話し合おう</div>	○学習課題を意識させるために、話し合いのしかたについてよい点や問題点を見つけておく。 ・意見が出ない → すぐにいいよと言う。・話しがまとまらない
2 個人で学校生活を振り返り、話し合っ解決したいことを考え、班で話し合い課題を決める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">議題を一つにしぼるためにはどうすればいいのかな</div>	○意見が整理しやすいように、ホワイトボードなどを活用する。 ○議題を絞るために、解決方法が見つかりそうなこと、自分たちの活動によって解決できることなどの条件に話し合わせる。

<他教科等との関連>

学級活動:学級の課題を解決しよう

○今の自分たちの学級の課題を考え、解決するための話し合い活動の中で、課題を解決するための自分の考えをもち、自分の立場を明確にして、互いの考えの共通点や相違点をはっきりさせながら話し合いをまとめていく力を身に付ける。



本授業例では、赤枠囲みのように国語科で身に付けた資質・能力を学級活動で発揮することが意識付けられています。国語科で使用した掲示物や学習プリントを活用するなどの工夫により、資質・能力の活用を児童にもイメージさせることが大切です。それにより、学級活動の時間に改めて話し合いの方法について時間をかけて説明する必要がなくなります。(ただし、児童の実態による。)

豊後高田市立香々地小学校では、言語能力の育成を目指し、教科等横断的な視点での教育課程の編成や実施に取り組んでいます。

令和2年度は、校内研究や互見授業の際に、左に示す「単元シート」を各自が作成することとしました。

この「単元シート」は、「他教科等との関連」を記載するよう工夫されています。

つまり、授業者は、「単元シート」を作成する段階から、国語科で育成した資質・能力を他教科でどのように活用・発揮させるかを考えて授業を組み立てることが求められるのです。

◇教科等横断的な教育課程の実施

＜他教科等で育成した資質・能力の活用を総合的な学習の時間に位置付ける＞



次は、日出町立藤原小学校の指導案の一部です。このように、他教科等との関連を指導案に明記することで、授業者も参観者も、総合的な学習の時間の学びと他教科等での学びのつながりが確認できます。

1 単元名 関口観光農園のこだわりをさぐる

2 単元の目標

藤原地区にある関口観光農園のこだわりについて、工夫していることを調べたり、工夫とそこに込められた願いを関係付けたりし、そこから学んだことを自分なりの方法で表現していくことを通して、関口観光農園の願いやこだわりを気付き、学んだことを表現する方法について考えるとともに、学び考えたことを生かそうとする態度を育てる。

(中略)

総合的な学習の時間の目標を達成するため、他教科等での学びを活用・発揮

5 本単元における各教科との関連

関連する教科	単元名	目指す児童像（2） 「習得した知識を活用し主体的に表現する子ども」
国語科	はんで意見をまとめよう	目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる。
社会科	はたらく人とわたしたちの暮らし	仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、生産に関わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現する。



次は、豊後高田市立真玉小学校の総合的な学習の時間の指導案です。学校の教育目標の実現を目指し設定した「具体的な資質・能力」や単元の評価規準において、各教科等の資質・能力との関連を意識しています。

単元名	単元の評価規準		
	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
真玉川とその環境について考えよう	①身近な川の現状を知り、真玉川の生物は互いの特徴を生かし、周りの環境と関わって生きていることを理解している。 【概念的な知識】	①真玉川の実態調査から、水質悪化の問題を見つけ、課題を明らかにし、解決に向けて自分ができることを具体的に考えている。 【課題の設定】	①真玉川的环境と自分たちのつながり考えるために、課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して、自分の意思で探求的な活動に取り組む。
	②真玉川にすむ生物の状況を捉えるために実態調査を行い、見つけた生物や植物について、資料やインターネットで調べ、新聞等にまとめている。 【技能】	②真玉川の現状を捉えるために、必要な情報について、手段を選択して多様な方法で収集したり、種類に応じて蓄積したりしている。 【情報の収集】	必要な情報を収集する ・国語科のインタビューの技能 ・社会科の資料活用の技能 など
	③真玉川的环境と自分たちの生活がつながっていることへの理解は、川とそこに生息する生物との関係を探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。 【探究的な学習のよさの理解】	③課題の解決に必要な情報を、収集した情報や調査結果を比較したり、関連付けたりして、理由や根拠を明らかにしながら、解決に向けて考えている。【整理・分析】	解決に取り組もうとしている。 【主体的・協働性】
		④真玉川的环境の保全を訴えることや自分たちができることを、表現の目的に応じて表現方法を選択し、伝える相手を踏まえて分かりやすくまとめている。 【まとめ・表現】	目的意識・相手意識を明確にした ・国語科の話すこと、書くこと ・目的や内容に応じて資料やグラフなどを活用する算数の力 など

4 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていく

教育課程の実施状況を評価する際には、次の2つの評価を適切に行う必要があります。

評価A



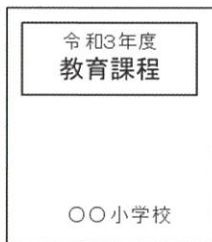
授業

「評価A」は「各授業・単元のねらいを達成したかどうか」の評価です。

「評価A」では、まず、各授業・単元において設定したねらいに対し、児童生徒の学習状況がどうであったかを、的確に捉えます。

その上で、学習の成果や課題などの学習状況の結果を、指導の改善に生かしていきます。

評価B



「評価B」は「教育課程編成・実施上の工夫が効果的であったかどうか」の評価です。

「評価B」では、まず、教科等の関連付けや教育資源の活用などの各学校が行った工夫が、資質・能力の育成に効果的であったかを検証します。

その上で、継続することや見直すことなどを整理して、教育課程の改善につなげます。

前ページの藤原小学校の例で確認します。この例の場合、

- ▶ 「評価A」は、総合的な学習の時間のねらいを達成しているかどうかを単元の評価規準に沿って評価することを指します。
- ▶ 「評価B」は、社会や国語の授業で育成した力を活用する場面として位置付けたことが効果的であったかなどを評価することを指します。

1 単元名 関口観光農園のこだわりをさぐる

2 単元の目標

藤原地区にある関口観光農園のこだわりについて、工夫していることを調べたり、工夫とそこに込められた願いを関係付けたりし、そこから学んだ事を自分なりの方法で表現していくことを通して、関口観光農園の願いやこだわりに気づき、学んだことを表現する方法について考えとともに、学び考えたことをいかそうとする態度を育てる。

評価A

(中略)

総合的な学習の時間の目標を達成するため、他教科等での学びを活用・発揮

評価B

5 本単元における各教科との関連

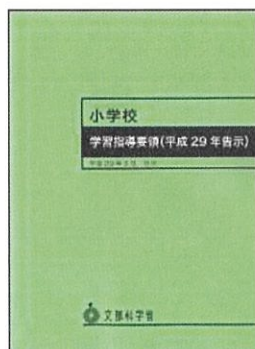
関連する教科	単元名	目指す児童像(2) 「習得した知識を活用して、主体的に考え表現する子ども」
国語科	はんで意見をまとめよう	目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる。
社会科	はたらく人とわたしたちのくらし	仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、生産に関わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現する。

「評価A」と「評価B」を混同しないように注意しましょう！

評価A 各授業・単元のねらいを達成しているか どうかを評価する

ここまで、カリキュラム・マネジメントについて説明をしてきましたが、授業者は、学習指導要領に示されている各教科等の資質・能力を確実に身に付けさせることが重要です。

そのためには、学習指導要領に示されている目標及び内容を十分理解するとともに、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」なども参考に、各教科等における資質・能力の育成について、確実に評価を行うようにしましょう。



教科の関連付けや教育資源の活用が目的のようになり、本来その教科で育成を目指す資質・能力の育成が授業づくりの中心から外れたりすることがないように気を付けましょう！

評価B 教育課程編成・実施上の工夫が効果的であったか どうかを評価する

「教育課程編成・実施上の工夫が効果的であったかどうか」については、資質・能力の育成状況を、様々なデータに基づいて分析することが求められます。データの集め方には以下のような方法が考えられます。

- 学力調査などの比較
- 単元テストなどの結果
- ワークシートや振り返り等の記述内容
- アンケート（教師，児童生徒）

ワークシートや振り返りの分析では、「〇〇で学習したことが使えた」や「〇〇科での勉強したことが△△科で役に立った」などの記述を読み取ったり、学習内容に対する記述の変化（例えば、「表現する力の育成に取り組んできた結果、1学期は自分の考えを1行書くことにも苦労した児童が、2学期には5行以上書けるようになった」など）を見取ったりすることが大切です。

また、アンケートを実施する場合には、カリキュラム・マネジメントの充実により各学校が創意工夫した手立てが、効果的であったかどうかを振り返ることができるような項目を意図的に設定する必要があります。

【事例の紹介】

◇教育課程編成・実施上の取組について評価する

日出町立日出小学校では、カリキュラム・マネジメントの充実に向けて取り組んできたことを、主に児童及び教師のアンケートにより評価しています。

学校として育成を目指す資質・能力として設定した「筋道を立てて考え表現する力」の育成について、アンケートの回答を分析していきます。

<教師アンケート(※一部抜粋)>

カリキュラム・マネジメントの効果について（養護教諭等、未回答項目あり）

【子どもの変容】

・国語科の学びを進んで活用しようとしていたか 1 はい[16名] 2 いいえ[2名]

・筋道立てた思考スキルや言語表現スキルに進歩が見られたか 1 はい[19名] 2 いいえ[1名]

【教育課程の改善】

・指導のために、単元の入れ替えなどを行ったか 1 はい[9名] 2 いいえ[11名]

・教科領域等の指導の充実が図られたか 1 はい[19名] 2 いいえ[0名]

<記述回答>

○国語科と他教科のつながりを考える中で、少しずつではあるが、「国語のこの力は、他教科のこの単元とつながりがあるな」というように自然と考えるようになってきた。

○学校の教育目標達成のために、年間を見通し、また、単元を見通して軽重をつけながら教育課程を改善していくことが大切なのだということがわかった。

▲筋道を立てて考え表現する力が子どもたちに身に付いたのかどうかをどう評価するのか、もう少し具体化する必要があったと思う。

▲課題解決の場面における言語活動(説明の仕方等)を子どもに習慣付けるためには、日頃の授業での積み重ねが大事だと感じた。

<児童アンケート(※一部抜粋)>

※4・5・6年生対象 181名

1 「国語」や「ハンドブック」で勉強したことが、ほかの教科の学習で役に立ったことがありましたか。

あった 173名 なかった 8名

<記述回答>

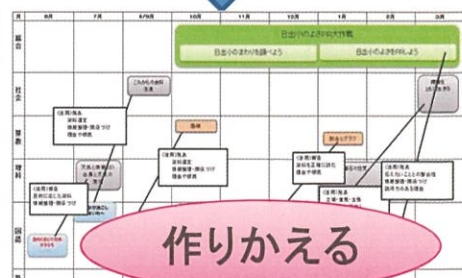
○人の意見と自分の意見を比べるときに役立った。

○算数で筆算の説明をするときに順序よく説明できた。

○構成を考えてまとまりのある文章を書くことができた。

日出小学校では、教師アンケートと併せて児童アンケートや授業中のワークシートの記述も分析しました。

その結果から、単元を関連させたことが有効であったものに絞り込んだ単元配列表を作成し、次年度につないでいます。



カリキュラム・マネジメントを充実するには、「継続」が重要です。カリキュラムの評価を適切に行った上で、効果が実感できるものについては次年度も確実に取り組むとともに、効果が見られないものについては取組の改善を行います。このサイクルを繰り返していきながら、教育課程をブラッシュアップしていくことが大切なのです。



本冊子では、学習指導要領総則に記載されている内容について、文部科学省の指定を受けた研究校の事例を併せながら、「カリキュラム・マネジメントとは何か」、「具体的にどのようなことに取り組んでいく必要があるのか」を説明してきました。

改めて考えてみると、カリキュラム・マネジメントの充実で求められる取組は、決して新しい取組ではなく、これまでも各学校で実践してきたものであることが分かります。

今次改訂で、このカリキュラム・マネジメントの取組が学習指導要領総則に記載されたのには、各学校において個々バラバラにやっていたことを資質・能力の育成の視点で整理することや無意識的に行っていた教科等の関連付けを意識的に行うことにより、確実に資質・能力を育成することが求められているからです。

変化が激しく予測が困難なこれからの時代を生きる子どもたちが、自身の力で未来を切り拓いていくことができるよう、「カリキュラム・マネジメント」という手立てをぜひ活用していただきたいと思います。

<本冊子で紹介した研究校一覧>

- ・県教育委員会ホームページから、研究指定校の2年間の研究のまとめを見ることができます。

「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」実践校

研究テーマ①

「学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究」

- ・豊後高田市立真玉小学校
- ・日出町立藤原小学校

研究テーマ②

「学習の基盤となる資質・能力（言語能力）の育成に向けた研究」

- ・豊後高田市立香々地小学校
- ・日出町立日出小学校

研究テーマ③

「現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究」

- ・豊後高田市立田染中学校

*** この手引きについてのお問い合わせ先 ***

大分県教育庁義務教育課

〒870-8503 大分市府内町3丁目10番1号

TEL : 097-506-5534 FAX : 097-506-1795